



〒954-0052

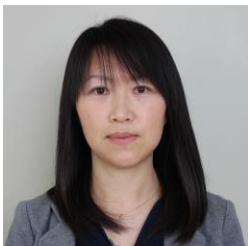
見附市学校町 2 - 7 - 9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail [mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp](mailto:mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp)

令和3年2月22日 NO.11

名木野小1年「雪遊び」



## 「対話」について考える

見附市教育センター運営委員（西中学校教頭）田中 綾子

2020年を迎え、多くの学校が「主体的・対話的で深い学び」を具現化しようとしていたと思う。平成29年告示の学習指導要領が完全実施となった小学校では、なおのことであろう。しかし、人と人の接触をできるだけ回避しなければならない状況下で、少なくとも「子ども同士の対話」「教職員や地域の人との対話」といった、面と向かう「直接的な対話」には、大きな制約がかかった。こうなってみて改めて、学校は「対話的な学び」が前提の存在であることを再認識させられる。

「対話」というと話すことの方が注目されがちだが、大事なことは相手の言葉をどう聞くかであり、聞いたものに対して自分がどう表現するかである。プレゼンテーションのように、あらかじめ準備したものを発表するだけでは対話とは言えないし、キャッチボールのようにぽんぽんと言葉が行き交うことがよい対話というわけでもない。

相手が発した言葉を受け取り、時間が

かかっても、うまくまとまらなくても、今、この場で言葉を生み出そうと考えることに意味がある。

また、新型コロナウイルス感染拡大状況下で「対話」＝「話す＋聞く」ではないことに気付く。文部科学省（2018）によれば、「対話的な学び」の「対話」には、「先哲の考え方」も含まれているが、目と目を合わせることで、相手の表情を捉えること、同じ雰囲気や肌で共有することなどは「対話」において重要な要素となる。現状からの出口がまだ見えない今、オンライン授業等、多様な学習が提案され、必ずしも直接的な対面によらない深め合い・高め合いの姿が増えるかもしれない。しかし、対面し共に学ぶ場としての学校の役割は失われることはない。むしろ、改めて強く求められていくのではないかと思う。

子どもたちが思わず話したくなる、聞きたくなる話題を準備しながら、学びが深まる対話について考え続けていきたい。

## 表紙写真に寄せて 幼保の『包み込むまなざし』に学びたい

◇三学期は学校に行く機会がなくて、子どもたちに会えず、寂しく思っていたら、名木野小学校の校長先生から「学校に来ませんか。」と嬉しい誘いを頂きました。

当日は雲一つない快晴。午前中、授業参観をさせてもらい、給食後の昼休みに、子どもたちの様子は…と、校内をウロウロしていると、一年生の子どもたちが、スキーウェアに着替えています。「何をやるの?」と聞くと「雪遊び!」と元気に教えてくれました。その元気につられ、コートも着ずに付いて行き撮ったのが巻頭写真です。名木野小の築山は、素晴らしいゲレンデです。子どもたちが築山で、思う存分遊んでいたのは言うまでもありません。

◇さて、この活動をするには、先生方の細かな気配りがあります。トイレに行かせる。ウェアに着替えさせる。手袋や帽子を着けさせる。長靴に雪が入らないように履かせる…。「そんな小学生なら、一人で出来るだろう」と思われるのでしょうか。そういう子どももいます。身の回りのことに無頓着な子ども、着替えの遅い子ども等…、よく見てあげないと心配な子どももいます。さらに、楽しかっただけではダメなのです。終了後、手洗いやうがい、汗の始末等をしっかりとやり、翌日、全員が、元気で登校が出来たところまでが、この活動です。30名以上の子どもたちが、在籍する学級もあります。一年生に関わる先生方に大きな感謝です。そして、幼稚園保育園の先生方は、もっと大変です。年長児はある程度出来ますが、年中・年少児、未満児もおります。「雪遊び」の実施は、小学生の比ではありません。さらに「水遊び」は、命に直結しますので細心の注意が必要です。園では二月なら節分のように、一年中、様々な活動が行われ、すべての園児に楽しく体験をさせます。ですから、活動時に園児たちにトラブルが発生しても、先生方は声を荒げた指導はしません。常に、園児を一人の人間として見て「包み込むまなざし」で接します。指導は、優しい言葉かけと温かなまなざしで行われます。この指導を、ぜひ小中学校の先生方に、見て頂けたらと思うのです。



園児とクッキー作り

## コラム 一生き方(目標)は、いろいろある…



◇大相撲初場所は初日直前に、横綱白鵬等が新型コロナウイルスに感染し多くの力士の欠場、加えて横綱鶴竜も体調不良で欠場、横綱昇進が期待された大関貴景勝も途中休場する場所となりました。そんな中、平幕大栄翔が三役力士全員を倒す大活躍(優勝)があり盛り上がりました。場所後、猛稽古で初優勝した大栄翔の手柄や埼玉県出身力士で、優勝者が出たのは初も話題になりました。

◇さて、サッカーのカズ(三浦和良)が、今年も現役続行(2月26日で54歳)で話題ですが、現在、幕内力士の最高齢は玉鷲の36歳です。力士は30台半ばが、限界(引退)と思われませんか。実は、相撲界で40歳以上の現役力士は15人います。なんと最高齢は50歳の華咲(はなかせ:立浪部屋:序二段)です。私が華咲を知ったのは、昨年7月場所に42歳の天一(てんいち:山響部屋)との取組が生まれ「92歳対決」と話題になったからです。南魚沼市出身の天一は郷土力士として、新聞等で名前を見ていましたが、年齢までは知りませんでした。年配の皆さんで、旧大和町に勤務をされた方は、北の湖部屋に入門(1993年3月初土俵)した渡辺俊哉君を覚えていませんか。彼が後にしこ名を天一にしたのです。43歳で迎えた初場所(序二段)は2勝5敗でした。最高位は幕下10枚目です。力士は十両から関取と呼ばれます。(幕下は十両の下)関取にもう一步まで行きましたが、関取になれずに現在に至っています。また、燕市出身の飛燕力(本名:吉川敬介)がいます。彼は今年38歳で、幕下上位まで行き、関取にもう一步届きませんでした。現役で頑張っています。力士は各部屋で切磋琢磨して稽古し、誰もが関取を目指し、関取になれば、最高位の横綱や幕内優勝を目指します。ですから、同じ部屋から強い力士が出ることが多いです。優勝した大栄翔の追手風部屋には、遠藤や翔猿、十両優勝した剣翔がいます。またピークを過ぎても、天一や飛燕力のように、部屋の様々な仕事をしながら、努力をしている力士もいます。相撲界を見ながら生き方を考えました。(こ)

## <4時から夢塾> 「お便りで皆さんとつながる」

第16回「4時から夢塾」は、1月20日（水）に、田井小学校の外山孝先生から「お便りで皆さんとつながる」をテーマに『校長メッセージ』を頂いた。話の内容は勿論だが「プレゼンはこうする」を学ぶ機会になった。

○オープニングで「皆さんの得意なこと・技は何ですか？」

・外山先生の出会った教職員は、・授業・部活動指導・絵画や作文指導、児童理解、文書管理やパソコン、物を直す等、その達人がいた。その中で私の得意な技は「お便りを書くこと」だった。

○新採用校での学級便りは「カルチャー新聞」・授業の様子、子どもの頑張りやノート等を載せた。

・4校目のF小では、便りを配付する時、読み聞かせて学級指導につなげた。また、便りに子どもたちを紹介した。当時の教え子で、現M中のK教諭の話「『認められているなあ』と嬉しかった。」

○担当分掌で様々な便りを出した。・体育部便り・特設部便り・研究推進便り・教務主任便り・

・部活動便り・子どもの頑張り、担当者メッセージ → 部活動で子どもたちと一緒に成長したい。

・研究主任便り・「研推インフォメーション」「ATOM UP」・同僚の頑張り、研究の方向、授業研の価値づけ、日々の授業、新しい教育の動向、校長・教頭の考えを伝えた。

・教務主任便り・「コナンの虫眼鏡」・同僚の頑張り・取組、今後の教育活動の見通し、教育活動の目的、日々の教育活動の発見、新しい教育の動向、校長・教頭の考えを伝えた。

○管理職 → 教頭便り・「兼続」「龍馬伝」「ドラえもん」、校長便り・「トナンの大きな虫眼鏡」

・自慢の職員の頑張りや校内の皆さんに伝えたい・

・地域・保護者の皆さんの応援を校内の皆さんに伝えたい・

・学校経営の心柱を校内の皆さんに伝えたい・

○歌詞を載せた便り「心温まるもの」「季節感のあるもの」

→桑田佳祐(SAS)、さだまさし、小田和正・

○毎年、繰り返し載せた話・武田鉄矢の「あなたは教師？先生？」「ゴールはみんな同じ」

○「形に残る思い出」をありがとう・読んで頂いた方々からの感謝の言葉や手紙→お便りを書く。

・嬉しくて、嬉しくて言葉に出来ないから・。・十のうち九つは辛いことでも、一つでも嬉しいことがあるともう少し頑張ろうかなって・。子どもたちと皆さんに感謝する心を持ち続けていきたい・。

○エンディングは、BGMに小田和正「今日もどこか」が流れ、1983年4月新採用S小の担任学級集合写真→2021年1月田井小の全校集合写真の中「いつの間にか38年、楽しかったなあ」で終了。

◇外山先生のプレゼンから学ぶもの・1. パワポのプリント資料の他、実際の便りを資料編で提示。2. 子どもたち、同僚職員が映像で登場し、当時の外山先生の様子を語った。3. 便りに使った歌詞がBGMで流れ、文字と音楽で伝えた。4. 10分前に余韻を残し終了し、残り時間を質問にした。



**参加者の声** ・自分がお便りにかける思いは、勿論重要だけれど、読み手が、便りをどう受け取ってくれるかが大事だなと考えさせられた。

・お便りは、誰に何を伝えたいかが、その時の立場で明確にされていて、とても参考になった。

・何か一つ強みを持つことが大切だと思った。自分にとっての強みは何だろうと考えさせられた。

・外山先生のお話を聞いて、安らぎと元気をいただいた。明日から何か頑張れそう・。

・子どもと過ごす時間を「もっと楽しいんでいきたいなあ」と、前向きな気持ちになるお話だった。



2月



# 科学教育部



《今月の1枚》

春が近づくも…

市民の森の入り口(2/17)

## 【科学教育部アンケート報告】

科学教育部のアンケートに、ご協力頂きありがとうございました。小・中学校、特別支援学校合わせて、140名の先生方からお答え頂きました。

### <見附市内の生活科・理科の指導について>

生活科・理科を担当している先生方は、およそ半数でした。その中には今年初めて担当するという先生もいます。生活科・理科は日常生活に大きく関連する教科です。生活のちょっとした話題も、扱うことができます。

毎年、初任者のいる学校に訪問をさせて頂いて、「基礎技能研修会」を行っています。科学の楽しさや魅力を感じてもらえるような研修を目指しています。今年も初任者以外の先生からも参加して頂きました。来年度以降も継続をしますので、科学に触れてみようかなと、興味がありましたらぜひご参加ください。また、どの学校でも実施することが可能です。ご連絡頂ければと思います。



【密度の違いを利用し、色水の層を作成】



【三密を回避できる糸電話】

### <科学教育部の活用状況について>

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、研修会参加者が減少しました。日程面でも参加の難しさがあったかと思います。その中で、「活用している」との回答の割合が増加していました。特に、教育センターだよりを参考にしている先生方が増えています。今年度から「科学の公園」など内容を刷新し、授業で使ったり、ちょっとした話題にしたりできる内容を心掛けました。今後も活用してもらえよう内容にしていきますので、よろしくお願いいたします。

他にも、アンケートでは研修会での要望や感謝の言葉を頂きました。ありがとうございます。先生方から頂いた意見を基にして、来年度の科学教育部の運営に生かしていきたいと思っております。

# 科学の公園

## 【一人一台端末～理科では何ができる？～】

見附市でも、一人一台端末の実現が近づいています。科学教育部のアンケートでも、Chromebook の活用についての要望が挙げられていました。活用することへの期待もあれば、不安もある状況だと思います。各校に配付され、少しずつ準備が進んでいることだと思います。「教師が使い方を理解しないと、子どもたちに使わせるのが難しい」と考えがちですが、子どもたちと一緒に使い方を学びながら、活用していけると良いのかなと考えています。もちろんそのためには、基本的なルール等が必要にはなりますが、慌てず、焦らず、良い準備をしていきましょう。考え方としては、今までの学習の延長線上で、「できることを増やすことを考えること」です。普段の授業から意識して考えていると、少しずつできることを増やせそうです。

さて、ICT を活用する上で大切なことは「目的ではなく手段」であるということです。理科であれば、自然事象と向き合い、法則や規則性を見いだす学習活動の中で活用するものです。ただ、「実験を動画で撮りました」だけでは、動画を撮るのが目的になってしまいます。画面を見ているだけでなく、目の前の事物や事象を観察しながら必要に応じて使っていけるものにしたいものです。

### 【活用例～実験を撮影して結果を記入する～】

単元－「ものの燃え方と空気」

方法－実験を動画で撮影して記録する。わかったことを画像に書き入れて説明する。



例えば、今まで実験結果を図でかいていましたが、撮影したものにそのまま書き入れることが可能になります。できることが増えましたね。他にも、動画の良さは繰り返し見直すことができ、音を記録することもできます。スローにして見ることもできます。

一人一台端末が入るからといって、特別なのではなく、今までの授業の延長線上であり、私たちが生活の中でスマートフォンを使うようなことと考えれば良いのかなと思います。スマートフォンなどを使って生活の中でできることが、授業でもできるようになるのです。「どうしよう・・・」よりも「これを使ってみよう！」という前向きな気持ちが、できることを増やすことにつながっていきますね。今後の研修や教育センターだよりでは、一人一台端末を活用した内容や、ICT を活用してできそうなことを紹介していきます。